

おわりに

平成8年3月に定年退職した私は、校長としての在職中に発行した学校だよりのうち、生駒小学校の「すくすく」4年分・全200号に書いた文章のいくつかを取りまとめ、『すくすく』はまだ?』と題して刊行しました。この書名は、生駒小学校の子どもが、私に話しかけてきた言葉からもらったもので、その内容は1校長としての仕事のまとめでもありました。

この書が、間もなくできあがって来ようとしていた5月8日、私は突然、心筋梗塞の発作に見舞われました。救急車で運ばれた天理よろづ病院循環器内科の医師の適切な治療で、一命は取り留めたものの2か月ほどの療養を余儀なくされることになりました。日中は、ナースの明るい笑顔につつまれ、同室の方々と会話を楽しむことのできる病室でしたが、夜の暗い病室は何ともやりきれないものでした。

テレビを見ることが許されるのは午後9時までであり、10時には消灯という病院生活の長い夜、私の脳裏を行き来するのは、理科教師としての自分のあしあとでした。

「あんな実験を考えたなあ」

「こんな工夫もしたなあ」

と38年間を思い起こし、

「あの実験は面白かった。データはノートに残っているはず…」

「あのときの学習指導案はどうしたのだろう。今、読み返してみたら面白いだろうな」

などと考えました。そして、夏の朝の早い夜明けでブラインドの向こうが明るくなってくるのを待ちかねて、こうしたことの数々をB6判の小さなメモノートに書きつけるのが日課になりました。

幸い、7月からは奈良文化女子短期大学附属高等学校の教壇に復帰し、休暇中、同僚の先生方に迷惑をかけていた化学 I B と物理 I A を再び担当することができました。週 4 日間の理科教師としての勤務も、これまでの経験を生かすことのできる火曜日・木曜日の渉外の仕事も共にやりがいのある仕事でした。

仕事に復帰してからの余暇は、病床でメモした内容に沿って資料を収集し、それらをパソコンを使ってまとめることが中心になりました。そうしてできたのが、41 年あまり理科教育にかかわってきたの結論である「やっぱり理科は面白い」という書です。多くの方々のご批正をお願いし、ご意見をお伺いしたいと思います。

ところで、最近聞かれる言葉の一つに「理科ばなれ」があります。これは、長い間、理科を楽しんできた私にとっては悲しい言葉です。そんなときに、いくつかの町からの依頼があり、子どもたちやお年寄り、あるいは、多くの一般の方々に、実験を通して理科の面白さをお話させていただくことができました。これは、私にとってやりがいのある仕事でした。これからも、このような機会を通して、理科の面白さを語りたい、そして、「科学の世界へのガイド」「理科の授業の出前人」としての役割を果たしていきたいと思っています。

終わりに、表紙の作成をお願いした生駒市立生駒東小学校の吉村茂先生、平成 8 年にご覧いただきました『『すくすく』はまだ?』に続いてアドバイスを頂戴し、印刷・製本をお願いした(株)新踏社の安達等会長に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 11 年 5 月

竹 中 良 行